

【オリコンサルグローバル参画 ジャカルタ MRTが開業 フェーズ1 15.7キロ コンサル、ゼネコンなど日本企業が参画】

コンサル、ゼネコンなど日本企業が参画

前支援コンサルタントに日本コンサルタンツやオリエンタルコンサルタンツグローバル、日本工営、パデコで構成するJVが参画した。土木工事は、清水建設や大林組、三井住友建設、東急建設が参画した。フェーズ1の事業費は約1800億円。フェーズ2（ブンデランHI〜カンプンバンダン約7・8キロ）を合わせた南北線の総事業費は約4000億円となっている。

東西線では、現在、フェーズ1（カリデレス〜チュンパカ・バル〜ウジュン・メンテン約32キロ）の整備に向け、基本設計・入札支援を担うコンサルタントの選定について、JICA（国際協力機構）がインドネシア側と協議を進めている。



開業式典の様子
（三井住友建設提供）

ジャカルタMRTが開業 フェーズ1 15.7キロ

日本の円借款で整備が進んでいたインドネシア初の地下鉄「ジャカルタMRT」が24日、開業した。同日現地で開催式典を開いた。

ジャカルタMRTは、ジャカルタ市内の慢性的な渋滞を解消するために計画された地下区間を含む都市高速鉄道。事業主体は「MRTジャカルタ社」で、ルバックブルス〜カンパンバンダン間約23・5キロの南北線と、バララヤ〜チカラン間約90キロの東西線を整備する計画だ。

今回、開業したのは、南北線のうち、ルバックブルスからブンデランHIまでのフェーズ1（約15・7キロ）の区間となっている。高架駅が7駅、地下駅が6駅で、市内中心部は地下区間となっている。施工監理には、オリエンタルコンサルタンツグローバルを筆頭とするJV、開業